

令和7年度 第2回
首里城公園管理体制構築検討委員会

【資料2】防災設備等の運用体制に係る第1回意見について

1. 正殿完成時の初動対応マニュアルの整理手法について

- 正殿内部火災は進行が早く、初動対応は**チーム連携**を前提に整理が必要
- 配置人数を前提にした**役割分担の明確化**が重要
- 全員一律対応ではなく、役割に応じた**行動整理・シナリオ化**が必要
- 車いす使用者対応等を踏まえた現実的な避難手順の整理が必要

2. 防災訓練計画の考え方について

- 初期消火・避難誘導等の**役割分担を前提とした訓練体系**が必要
- イーバックチェア等、専門的対応には**反復訓練**が不可欠
- **図上訓練と実地訓練を組み合わせた**実践的訓練の継続
- 消火器・屋内消火栓の確実な**取扱い習熟の維持**
- 消防OB等の関与による主体的・専門的な訓練体制の継続
- **県が指導**できる体制・仕組みづくり

3. 夜間・イベント時の防災・防火対応について

- イベント開催時は通常時とは異なる防災・防火対応が必要
- 正殿竣工後のオープニング等、**大規模イベントを想定した体制検討**が重要
- イベント時に体制がどのように機能・運用されるかの事前整理
- 来園者の滞留・待機列を踏まえた安全対策（暑熱対策等）への配慮
- **夜間イベント時対応**については、**今後さらに具体化・検討**が必要

1. 正殿完成時の初動対応マニュアルの整理手法について

第1回委員会の意見

(1) 初動対応に関する基本的な考え方

- 正殿内部で火災が発生した場合は火の回りが早く、対応が複雑になるため、初動対応にあたるスタッフがチームとして連携するための具体的な方法を整理する必要がある。

(2) 役割分担・人員配置に関する意見

- 全員が一律に初期消火やイーバックチェア対応を行うのではなく、役割分担を明確にしたほうがよい。そのうえで、どのようなシナリオで避難させ、チームとしてどのように動くかを整理しておく必要がある。
- 必要な人数を配置するところからスタート。全員が初期消火や避難誘導などすべての対応を行うのは現実的ではなく、配置される人数に応じて、誰がどの役割を担うのかを明確に整理しておくことが重要である。
- 正殿内部の対応人員について、役割分担をする旨、初期消火・避難誘導のどちらも対応できるよう訓練をする旨を記載すれば誤解のない表現になると思う。



初動対応マニュアルへの反映（案）

対応策①：階別に“役割枠”を固定する

各階に共通する4つの役割枠

1. 現場指揮：状況判断・役割指示
2. 初期消火：消火器・屋内消火栓
3. 避難誘導：入場者誘導・声かけ
4. 要配慮者対応：車いす等の一時待避対応

対応策②：役割枠に“入る条件”を決めておく

具体ルール（案）

1. 現場指揮：当日任命
2. 初期消火：消火器を最短距離で持てる位置にいる者が優先で、現場指揮が現場にて指名
3. 避難誘導：初期消火に入らない者が自動的に担当
4. 要配慮者対応：原則「一時待避」させ、現場指揮の判断で対応

対応策③：定型フレーズによる即時割当て

現場で使う定型フレーズ（案）

「Aさん、消火」「Bさん、誘導」「Cさん、要配慮対応」

対応策④：1階・2階の連携の考え方

- 各階は原則として独立して初動対応を行うが、発災階の現場指揮者は、状況に応じて他階への応援を要請するものとする。また、奉神門防災センターにおいても、必要に応じて応援等の指示を行う。

1. 正殿完成時の初動対応マニュアルの整理手法について

第1回委員会の意見

(1) 初動対応に関する基本的な考え方

- 避難計画上は、短時間で避難できると思うが、実際の避難時は混乱・パニックを起こさせないことが最も重要である。

(2) 役割分担・人員配置に関する意見

- 全員が一律に初期消火やイーバックチェア対応を行うのではなく、役割分担を明確にしたほうがよい。そのうえで、どういうシナリオで避難させ、チームとしてどのように動くかを整理しておく必要がある。(再掲)
- 正殿内部で火災が発生した場合、2階からの避難では車いす使用者がボトルネックとなる可能性がある。健常者は自発的に避難し、車いす使用者は一時待避場所に誘導・待機させるシナリオ・手順で整理すれば、4名体制でも対応可能と思われる。

初動対応マニュアルへの反映(案)

① 正殿内発災時の初動対応の考え方

- 正殿内で火災が発生した場合の初動対応については、発災場所、時間帯、入館者数、要配慮者の有無等を前提条件とした想定シナリオを設定し、発報から初期消火、避難誘導までの対応の流れを時間軸に沿って整理する。
- なお、県作成「初動対応マニュアル」を踏まえ、指定管理者において「初動対応実施計画」を作成するものとする。具体的な記載内容については、今後、指定管理者において検討を行う。

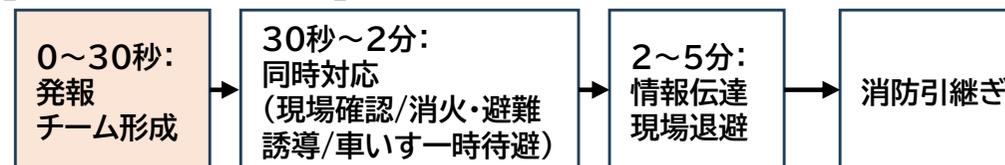
② 想定シナリオの作成について

- 発災条件を具体的に設定した想定シナリオを作成し、発報後の対応を時間軸に沿って段階的に整理する。
- これにより、初期消火、避難誘導、通報といった行動について、役割分担を前提とした同時並行対応が可能となるチーム体制の具体像を明確にする。

【前提条件】

発生場所：正殿 2階 展示室付近 発生事象：自火報作動
時間帯：開園時間中 来館者数：2階 約50名
要配慮者：車いす使用者 1名 スタッフ配置：2階 4名、1階 4名

【初動対応シナリオ案】



【シナリオで明確にする考え方】

- 初期消火・避難誘導・報告は同時並行で行う
- 人数制約(2階4名)を前提に、役割を切り分ける退避
- 要配慮者対応は一時待避までとし、無理な介助は行わない
- 全員が同じことをやらず、チームとして機能することを優先

2. 防災訓練計画の考え方について

第1回委員会の意見

(1) 訓練の重要性に関する意見

- イーバックチェアは訓練が必要である。
- 正殿内部の対応人員について、役割分担をする旨、初期消火・避難誘導のどちらも対応できるよう訓練をする旨を記載すれば誤解のない表現になると思う。(再掲)
- 正殿完成時に、図上と実地訓練を合わせてしたことが重要である。本日の議論でいえば、人員配置が現状で十分か、あるいは不足しているのかといった点の検証が必要である。図上チェックだけでなく現地訓練など、現場に落とし込むプロセスを怠らないようにする旨を示すのがよいと思う。

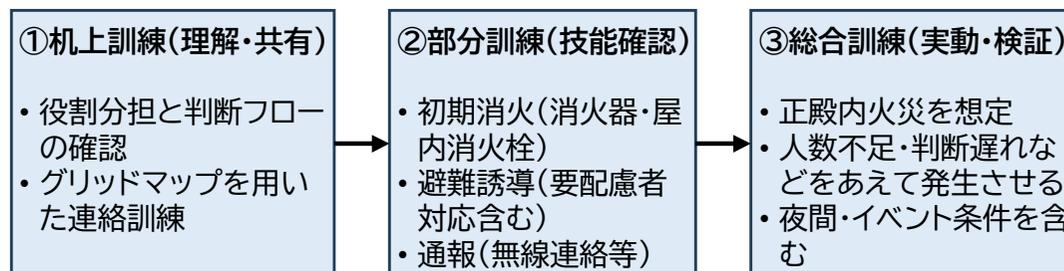
(2) 訓練体制の評価・課題に関する意見

- 午前の視察時の説明では、初期消火班及び避難誘導班といった明確な役割分担のもとで訓練は対応されており、いずれの役割にも対応できるよう訓練していることを伺った。県として指導できるようにしないといけないと感じている。
- 消防吏員経験者が参加し、主体的に訓練を実施しているとの報告があった。スタッフ全員が屋内消火栓を使用できる状態を維持できれば、委員が懸念している課題にも十分対応可能である。このような訓練体制を継続していることは非常によい。

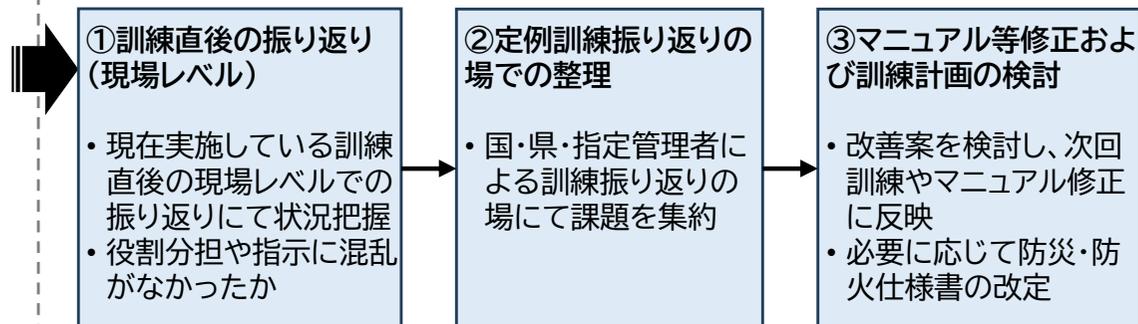
防災訓練計画への反映(案)

①段階的訓練体系の確立

初期消火・通報・避難誘導を同時並行で行う正殿内の初動対応については、段階的な訓練を通じて「チームとして動ける」体制を万全にする必要がある。



②訓練結果をマニュアル等修正に反映する体制



③訓練結果の得点化(評価の見える化)

訓練の振り返りを属人的な印象評価にしないため、チェックシートを用いた得点化を行う。

- 5段階評価(例:1~5)を基本とする
- 評価結果は合計点や傾向として整理し、前年・前回訓練との比較が可能な形で記録する
- 点数が低い項目は、改善の優先度が高い領域として整理する
- 想定外や失敗が生じた場合も、改善の材料として積極的に記録する

第1回委員会の意見

(1) イベント時の防災に関する意見

- イベント開催時は特別な防災対応が求められる。正殿竣工後のオープニングイベントなど、次年度以降に予定される行事も見据え、イベント時にどのように体制が機能し、運用されるかを検討しておくことが重要である。

イベント時対応の方針（案）

イベント時の防災・防火対応については、通常時の初動対応を基本としつつ、主催者との連携を重視した特別運用として整理する。

① イベント時対応の基本的な仕組み

項目	概要
1) イベント主催者との実施計画の擦り合わせ	<ul style="list-style-type: none"> • 防災・防火の観点から実施計画を事前に確認・擦り合わせする。 • 特に以下の事項について整理する <ul style="list-style-type: none"> ➢ 関係機関への届出（申請書類等）の確認 ➢ 想定来場者数と滞留箇所 ➢ 動線・照明・仮設設備の有無 ➢ 主催者側スタッフの配置・役割
2) 合同図上訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> • 実施計画を踏まえ、イベント主催者・警備・指定管理者が参加する合同図上訓練を実施する。 • 図上訓練では、以下を重点的に確認する <ul style="list-style-type: none"> ➢ 発災時の連絡・指揮命令系統 ➢ 主催者と警備・防災側の役割分担 ➢ 夜間・混雑時における初動対応の流れ
3) 訓練チェックシートによる評価	<ul style="list-style-type: none"> • 図上訓練チェックシートを用いて対応を評価する。 • 評価は合否判定ではなく、役割分担が機能したか/判断に迷いが生じなかったか/主催者との連携が円滑であったか等の改善点の抽出を目的とする。
4) イベント当日の調整	<ul style="list-style-type: none"> • イベント当日は、開始前に当日の現場指揮・イベント統括責任者との最終確認を行う。 • 発災時の初動対応の流れ、無線・連絡手段、判断権限（中断・縮小・通報等）等を明確に共有する。